

モジュール6 「ジェンダー視点に立ったプロジェクト のモニタリング&評価」

163

最後のモジュール6では、ジェンダー視点に立ったモニタリング・評価について見ていく事とします。

1. モニタリングとは

プロジェクトが計画通り実施されているか、その進捗状況を継続的にチェックし、必要に応じて計画内容を修正すること。

モニタリング項目

- ①投入の実施状況
- ②活動の実施状況
- ③アウトプットの達成状況。
- ④プロジェクト目標の達成見込み

164

モニタリングの目的については、既に良くご存知のことと思います。

プロジェクトのPDMや活動計画に則って、その実施状況や進捗状況を定期的に確認するのがモニタリングです。その時に、もし、進捗に問題があると思われる場合は、問題点を把握し、PDMに沿って活動が実施されるよう、何らかの措置を講ずることになります。

評価とは

既に終了した、あるいは実施中のプロジェクトを調査し、結果を明確にするとともに、プロジェクトの今後の展開に関する提言と、他の案件への教訓を引き出すこと

プロジェクト評価の対象

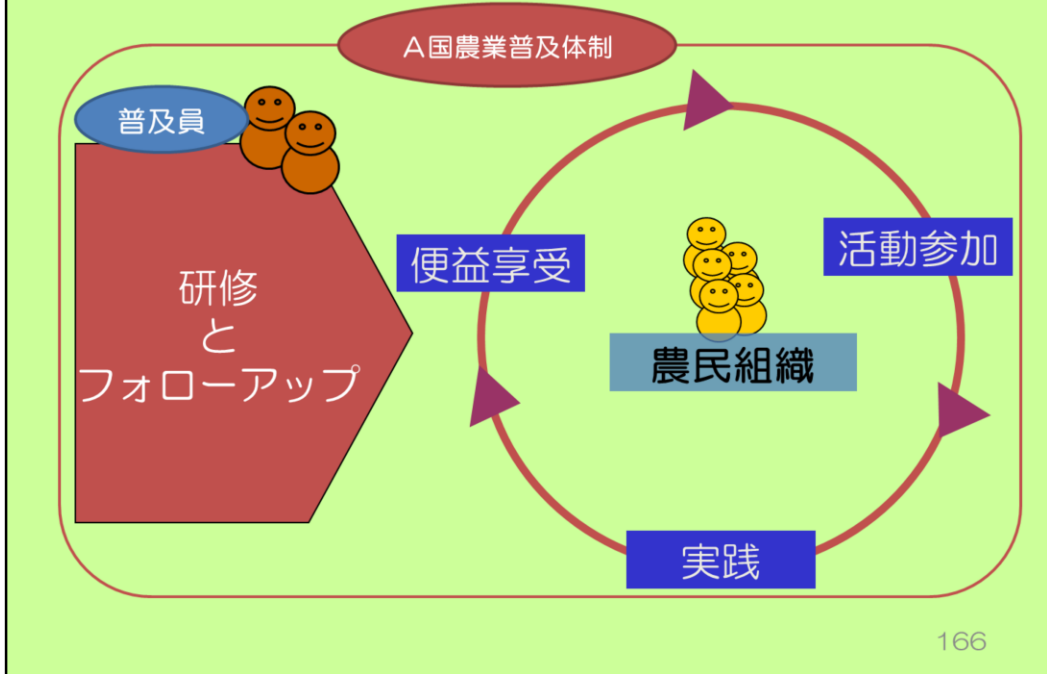
- ①実績
- ②実施プロセス
- ③5項目評価

165

一方、評価は、日々行うモニタリングと異なり、プロジェクト活動全体をPDMに則って、その実施状況、及び成果を確認するものです。JICAの中間レビューや終了時評価では、実績や成果のみならず、5項目の視点からもプロジェクトの内容・実績が評価されるのはご存知のことと思います。

評価の結果は、評価対象のプロジェクトのみならず、他の類似プロジェクトにも教訓として活かされることとなります。

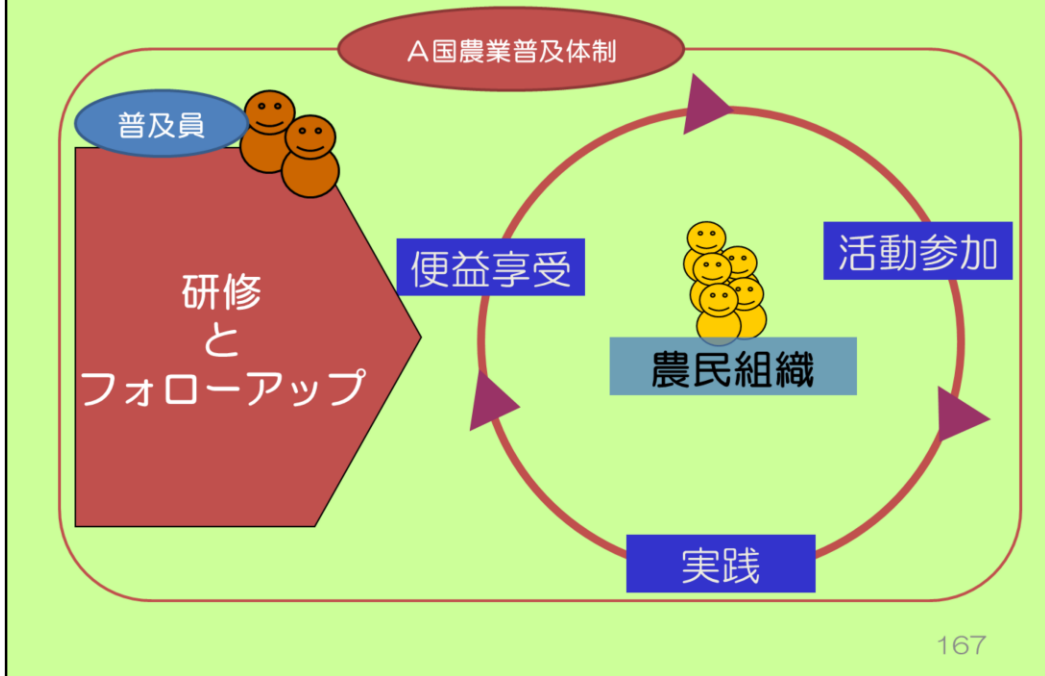
HP I Pモニタリング・評価 この体制は確立されてきたのか



モニタリングと評価の一般的な定義について見てきましたが、ここで、再度、HPIPに戻ります。

HPIPは、対象農家の園芸作物生産の収量向上のための活動の計画、実践、そしてその結果としての収量向上(便益享受)という流れに基づいて実施されています。カウンターパート機関は、その過程で、農家に対し、研修とモニタリングを実施するという役割を担っています。

ここにどのようにジェンダー視点を入れていくのか



この一連の流れの中にもジェンダー視点を取り入れていく必要があります。
どのように取り入れていくことが出来るでしょうか？

2. ジェンダー視点に立った モニタリング・評価1

- 通常のプロジェクト・フレームワークでのモニタリング・評価が基本

なぜなら

- ☆PDMの中にジェンダー視点が入り込められている（活動、プロ目、指標）
- ☆性別データ（gender-disaggregated data）が収集されている

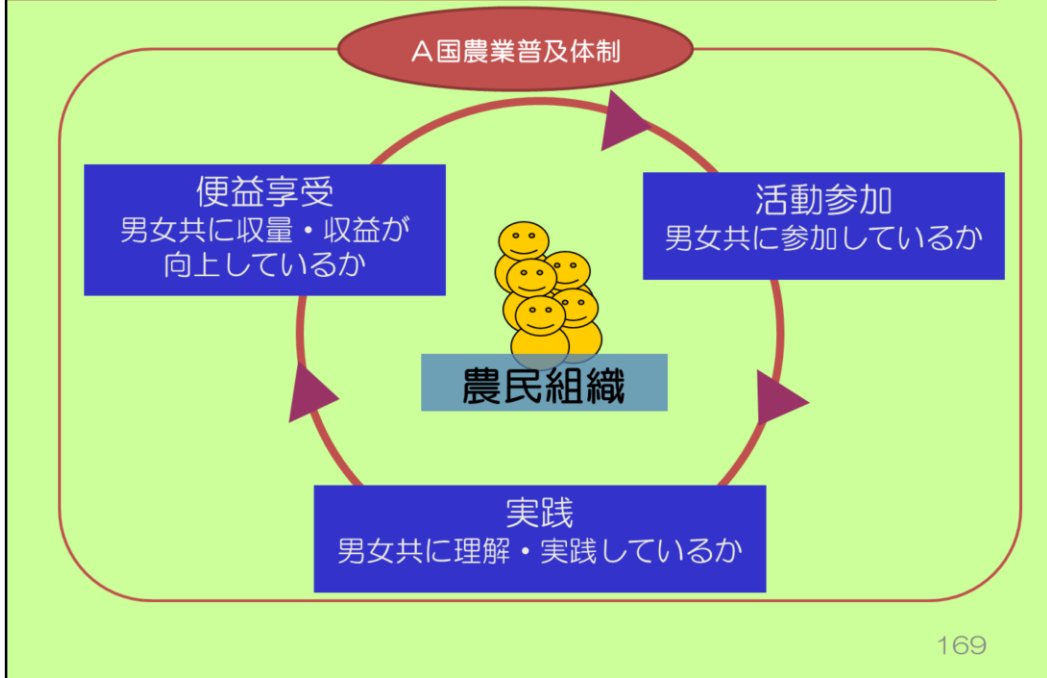
168

プロジェクトのモニタリング・評価をジェンダー視点に立って行うには、まず、通常のモニタリング・評価の枠組みの中に、既にジェンダーの視点が入り込められているようにして下さい。

既に、見てきたように、モニタリングも評価もプロジェクトのPDMや活動計画に沿って行われます。モジュール5で検討したように、PDMの中にきちんとジェンダー視点が反映されていれば、「ジェンダーの観点」からのモニタリング・評価を別建てで行う必要は全くありません。

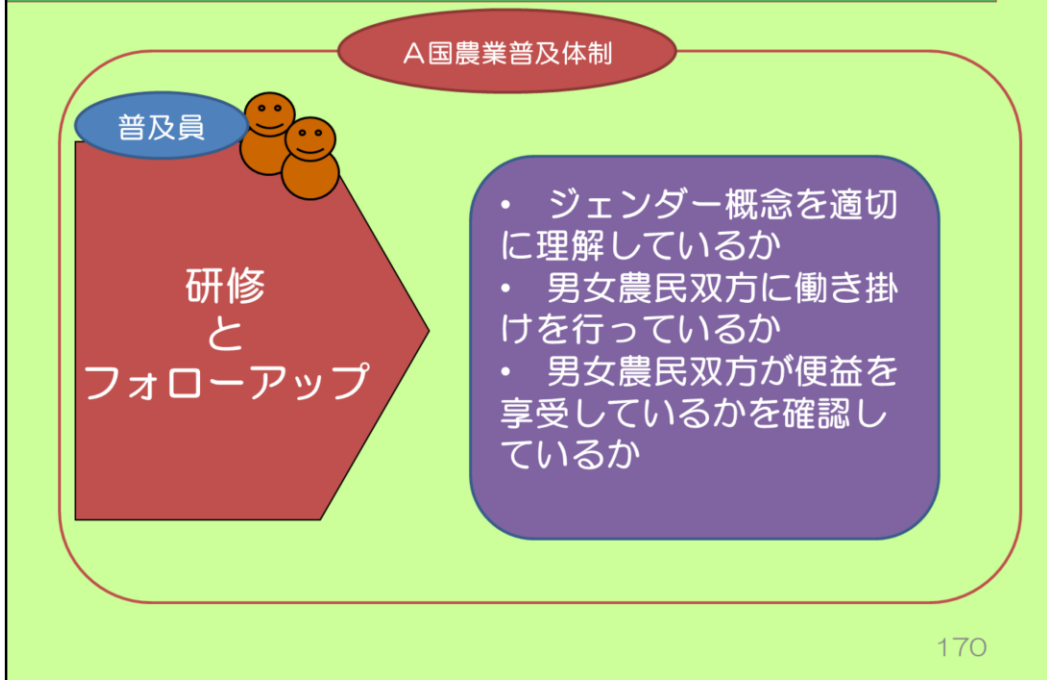
また、指標や成果も、男女の差異が測れるものとなっているはずですので、性別データもモニタリングや評価の過程で収集されているはずで

ジェンダー視点からのモニタリング・評価1



つまり、活動、実践、評価のそれぞれで、男女農家双方を見ていく事で、ジェンダー視点に立ったモニタリングと評価が実施できることとなります。

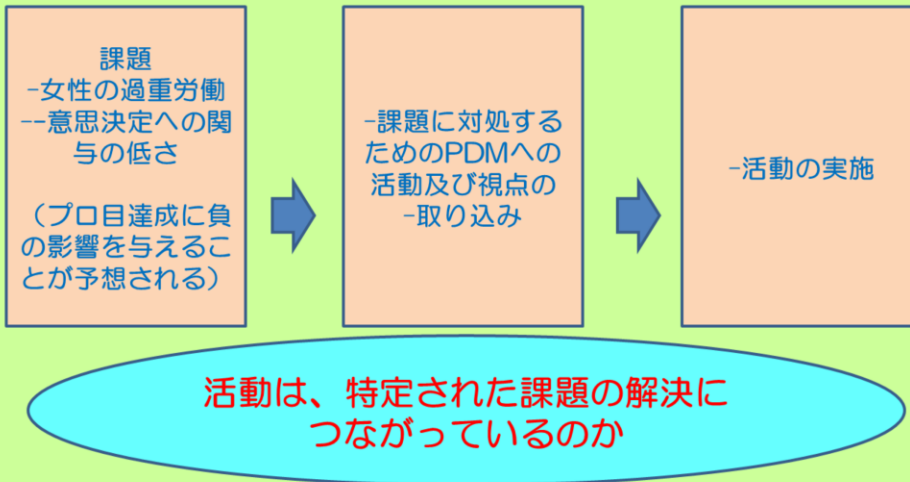
ジェンダー視点からのモニタリング・評価1



また、カウンターパート機関の職員的能力を見る時も、男女農家双方を対象として活動しているかどうかを見ることで、職員的能力向上の有無を図ることが出来ます。

3. ジェンダー視点に立った モニタリング・評価2

・ ジェンダー活動の成果の確認



171

上述のように、ジェンダー視点が既に取り込まれたPDMや活動計画に則って、モニタリングや評価を実施すれば、わざわざ、ジェンダー主流化の成果を測るために、別建てのモニタリングや評価を実施する必要はありません。

但し、その一方で、ジェンダー分析調査で特定された課題がプロジェクトの介入によってどのように変化したかを見るために、モニタリングや評価を行うことはあります。もちろん、これらの課題が全く解決されていなければ、プロジェクト活動の進捗に影響が出ているはずですので、活動が順調に進捗しているようであれば、これらの課題が、解決していなくてもある程度は緩和していると想像できます。しかし、より詳しく、どのような変化が起きているのか、また起きたのかを見るためには、別途、これらの課題の変化に対するモニタリング及び評価を行う必要があると言えます。せっかく、ジェンダー分析調査を実施し、ジェンダー課題を抽出し、それに基づいて活動を行ったのですから、その課題が緩和されたかどうか、是非確認し、ジェンダー主流化の意義を感じてください。

4. 演習問題

172

それでは、これまでに説明してきたことを確認するための演習問題に、ここで取り組んでみてください。

演習問題：M&Eデザインの構築

モジュール3「計画・立案」で特定した活動のうちの1つについて、活動実施状況や成果をモニタリングするための調査デザイン（調査対象者、調査手法、調査項目等）を検討し、以下の表に纏めてください。

調査項目	収集すべきデータ	情報源	収集方法

173

これまでの説明を参考に、上記の表を埋めてみてください。

5. まとめ

まとめ

(通常のプロジェクトの枠組みの中で)

- アウトプットや指標にジェンダーの視点が入り入れられている事を確認
- 性別データが適切に収集されるか、されているかを確認

ジェンダー主流化プロジェクト
の大原則

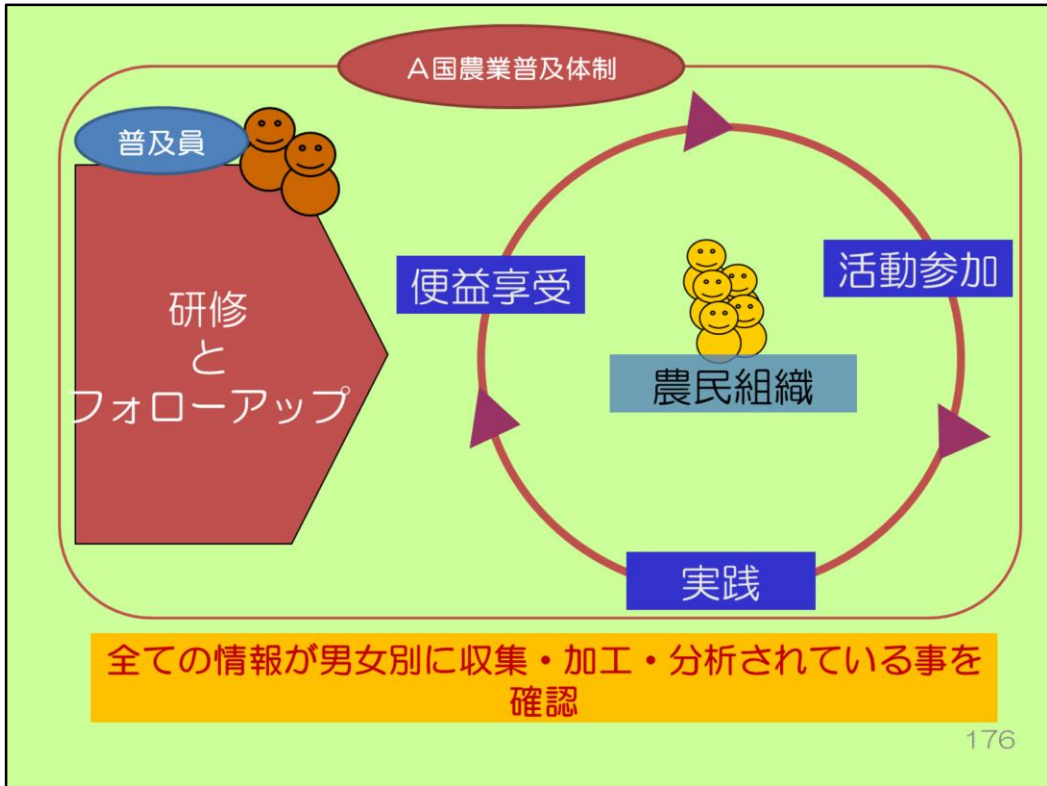
175

前述のように、ジェンダーが主流化されたプロジェクトでは、PDMの中にジェンダーの視点が既に取り入れられているはず。従って、特別にジェンダーの視点からモニタリングや評価を行う必要はないはず。(但し、ジェンダー課題緩和を対象とした活動については、ご説明したように別途実施する必要があるかもしれません。)

そこで、モジュール5の内容とも深く関連しますが、プロジェクトの立ち上げ時にPDMを修正する際は、以下の点が反映されていることを確認してください。

- アウトプットや指標にジェンダーの視点が入り入れられているか
- 性別データが収集されるようになっているか

これらの点は、ジェンダーが主流化されたプロジェクトであるならば、当然の視点ですので、ご注意ください。



また、男女別で収集されたデータが、男女別に加工、分析されるように注意してください。

まとめ

(ジェンダー活動成果に係るモニタリング・評価)

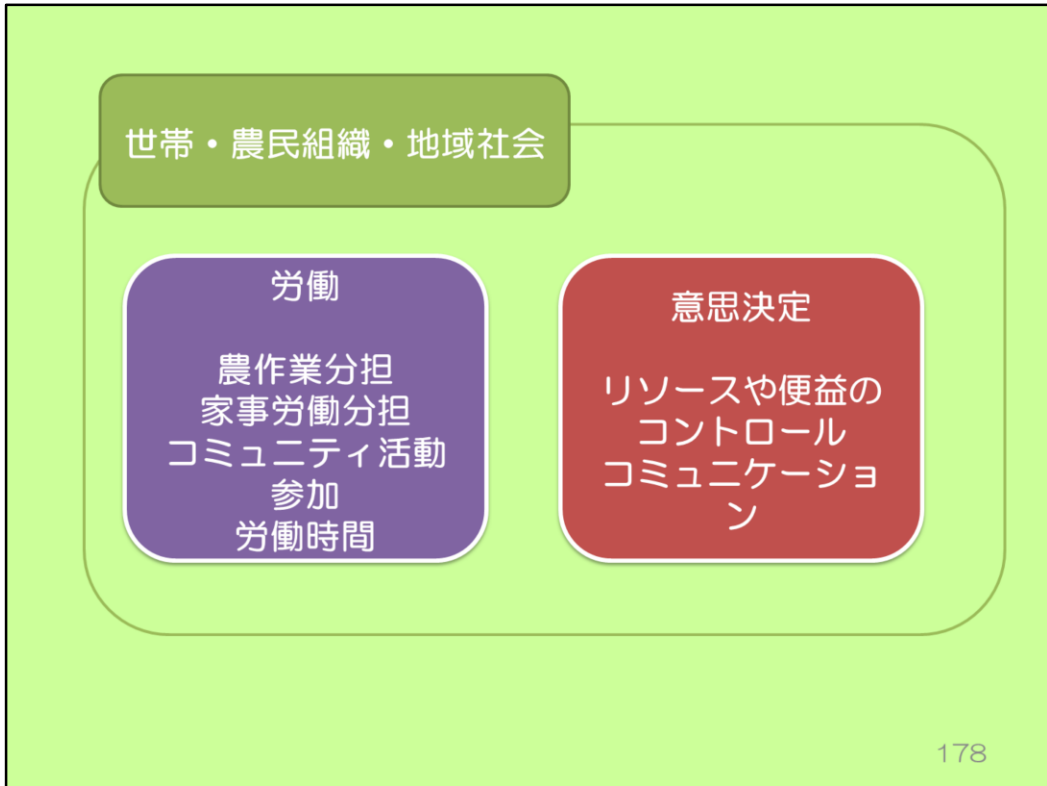
- 目的はジェンダー活動がジェンダー課題の緩和、プロ目達成に貢献しているかの確認
- 通常に収集されている性別データを出来るだけ活用
- モニタリング・評価で必要とされるデータはプロジェクト開始当初から収集できるようアレンジ

177

なお、ジェンダー課題緩和にかかる活動について、モニタリングや評価を計画されるときは、上述の点に留意する必要があります。

特に、収集するデータについては、出来るだけ、通常のプロジェクトの枠組み中で収集されるデータが活用できるようにすることは重要です。同じようなデータであるならば、別途収集する必要はないはずです。データ収集・加工は時間も手間もお金もかかる作業ですので、出来るだけ手間を省く方法を検討してみてください。特に、プロジェクトの開始時は、様々なデータを収集したいと思われると思いますが、収集したデータはどうやって加工し、分析するのかを念頭に、収集するデータを特定してください。また、収集データが多いという事は、それだけカウンターパート機関職員や農家に時間を割いてもらっていることを意味します。加工できない、分析できないデータの収集のために、これらの人たちに余分な手間をかけさせることのないようにすることが肝心です。

なお、別添資料に、能力強化研修参加者による本課題に係るグループワーク結果がありますので、そちらもご参照ください。



最後になりますが、プロジェクトの活動は、地域社会、受益農家世帯に受け入れられて初めて、十分な成果が発現します。

対象地域の人たちがどのように暮らし、どのように互いにかかわりあっているのかに配慮することで、プロジェクトの活動の成果はより大きく、実り多いものとなるはずです。



プロジェクトのジェンダー主流化は女性の便益だけを念頭に置いたものではありません。

参加農家皆が参加し、皆が便益を享受できるよう、是非、工夫してみてください。